

平成 29 年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒等に役立てることやこれらの取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成 29 年 4 月 18 日（火）

■ 調査の対象学年

小学校 6 年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備や状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

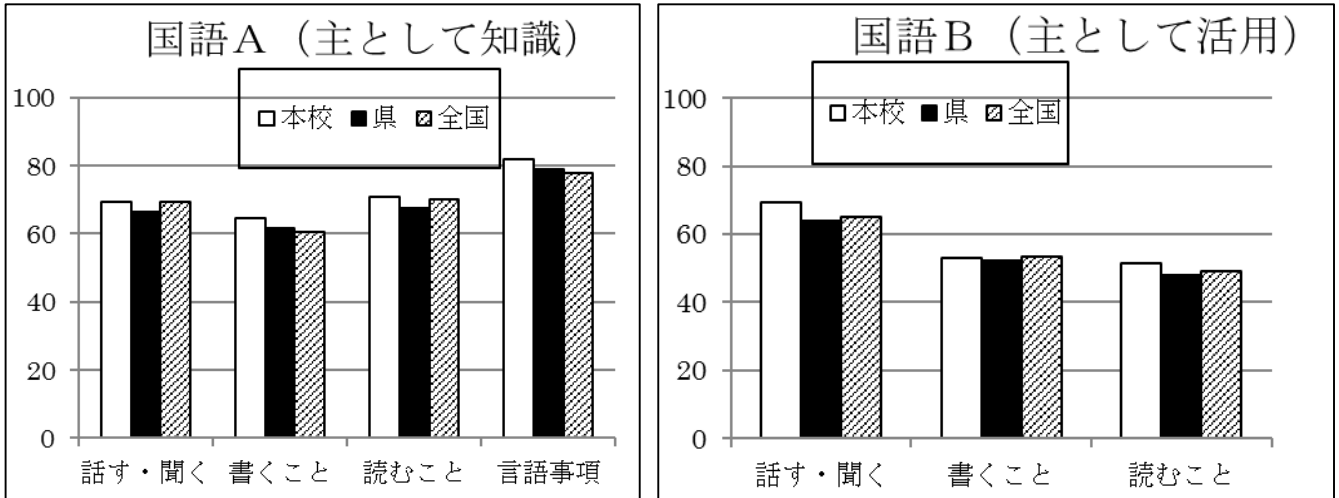
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



(2) 結果分析

話す・聞く

・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うこと（国語 A）、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話すこと、話の構成を工夫すること（国語 B）は概ねできています。同じ内容の問題でも、記述式になると正答率が低くなっています。

書く

・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと（国語 A）、目的や意図に応じて引用したり文章全体の構成を考えたりすること（国語 B）は、概ねできています。手紙の構成を理解して後付けを書くこと（国語 A）や目的や意図に応じて整理して書くこと（国語 B）の正答率が低くなっています。問題形式による影響も大きいようです。与えられた条件を満たしながら書く力を付けていく必要があると考えます。

読む

・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むこと（国語 A）、登場人物の相互関係や場面についての描写を捉えること（国語 B）はよくできています。自分の考えを広げるための発言の意図を捉えたり、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることの正答率が低くなっています。

言語事項

・これまでに学習した漢字を書くこと、読むこと、ことわざの意味を理解して使用することなどは大変よくできています。日々の授業で、家庭学習の中で取り組んできた成果が表れています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

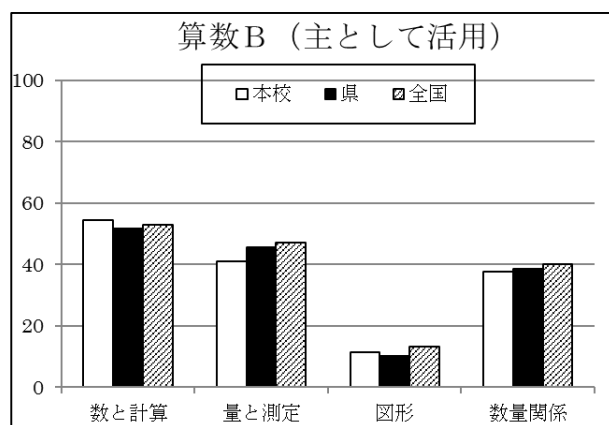
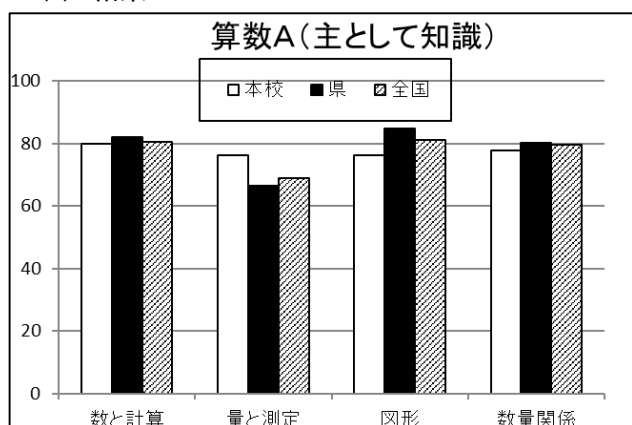
結果分析から、特に自分の考えを書いて表すことが課題であることが分かります。教育活動全体を通して、立場や目的、意図を明確にした言語活動、特に書く活動を充実させていきます。同時に、昨年度に引き続き、本に親しむ習慣（朝の読書）を身に付けさせる取り組みを継続し、読んで学ぶことの楽しさに気付かせていきます。

【ご家庭では】

親子で、読書に親しんだり、日常生活での出来事や新聞記事（ニュース）について話題にしたりするなど、正しい言葉の使い方や多くの語彙に触れることが大切です。家庭学習では、お子さんが書いた作文、日記を楽しんで読み、褒めていただければと思います。子供が書くことを楽しむようになります。

2 算数

(1) 結果



(2) 結果分析

数と計算

- 乗法の文章問題、三桁の整数の乗法、分数、最小公倍数などの計算(算数A)、条件をもとに立式すること(算数B)はよくできています。問題に示された二つの数量関係を一般化して捉えてきまりを記述したり、資料から必要な数値を選んで求め方を記述したりすること(算数B)の正答率が低いです。記述式の問題で正答率が低くなっています。

量と測定

- 重さや長さの単位による測定の理解や平行四辺形と三角形の底辺と面積の関係の理解(算数A)、平均を求める式を判断すること(算数B)は、よくできています。仮の平均を用いた考えから、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述すること(算数B)の正答率が低いです。記述式の問題の正答率が低くなっています。

図形

- 正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成できることの理解、立方体の面と面の位置関係の理解(算数A)は大変よくできています。満月の直径を硬貨の直径に置き換えて考える問題で、理由を記述することの正答率が低くなっています。

数量関係

- 未知の数量を表す□を用いて問題場面を式に表すこと、資料を表に分類整理すること(算数A)は、よくできています。式の中の数の意味を表と関連づけながら解釈して記述すること、割合を比較する目的に適したグラフを選ぶことなど(算数B)の正答率が低くなっています。表やグラフに示された数の関係を理解することに課題があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

結果分析から、特に題意を読み取り自分の考えを言葉や式で書き表すことが課題であることが分かります。授業では、題意をとらえる場面や互いの考えを練り合う場面など言語活動の充実を図ると同時に、答えを導き出す過程を書き表す学習活動に力を入れていきます。少人数・TT指導も児童の実態に合わせて効果的に取り入れ、学力向上を目指します。また、基礎的な計算力を育み、学びの定着を図る取り組み(パワーアップタイムや習熟タイム)を充実させます。

【ご家庭では】

日常生活には算数の考えが活かされた場面がたくさんあります。買い物、料理、何かを分けるときなどに子供に考えさせ、説明させる時間をとっていただくと、算数への関心が高まります。学校で学習したことを家庭で復習することで、学力が定着してきます。宿題やテストなどには必ず目を通していただくと、つまづきを早めに見つけられます。早期の対応が、算数の苦手意識をなくす鍵となります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

(%)

調査項目	本校 (今年度)	本校 (昨年度)	全国 (今年度)
朝食を毎日食べている	92.4	93.5	95.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	80.8	84.5	79.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている	91.0	89.6	91.2
平日2時間以上テレビを見る	47.5	57.2	55.7
平日1時間以上ゲームをする(パソコン・携帯型・スマホ型も含む)	37.1	41.5	55.5
平日読書を30分以上している。	21.7	52.0	36.5
平日読書は全くしない～10分未満。	27.0	22.1	36.6
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。	84.6	80.5	78.1
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしない。	5.1	1.3	5.1

ご家庭の協力もあり、基本的な生活リズムはおおむね身に付いているようです。しかし、朝食について全国平均より低い傾向にあります。朝食には、低下していた体温を上昇させ、身体を目覚めさせたり脳の働きを活性化させたりする働きがあることが分かっています。これからも「早寝・早起き・朝ご飯」を合い言葉に、規則正しい生活ができるよう、ご家庭のご協力をよろしくお願いいたします。

《家庭学習の様子》

(%)

調査項目	本校 (今年度)	本校 (昨年度)	全国 (今年度)
学校の授業時間以外に、平日2時間以上勉強している	24.3	22.1	27.1
学校の授業時間以外に、平日1～2時間勉強している	39.7	33.8	37.3
学校の授業時間以外に、平日0～1時間勉強している	33.3	44.2	32.7
家で、学校の授業の復習をしている	73.0	53.3	53.8
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	64.1	65.0	64.5
新聞をほぼ毎日読んでいる	10.3	9.1	7.8
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	83.4	86.3	84.6

家庭学習に関して、多くの子供が家庭学習の時間をとっていることが分かります。内容として復習に力を入れています。定期的に復習していくことで、記憶が定着していきます。情報の入手方法が新聞から、テレビやインターネットに移行していることが分かります。正しい情報をどのようにして入手していくかということについても学習していく必要があります。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】宿題や復習の時間が多いと学力が付きます。自学(自主学習)については、中・高学年を中心に取り組みを充実させていきます。その際、模範となる自学を表彰して学校全体に自学の取り組みを広げていきます。また、朝読書、家読書を推奨していきます。メディアセンターの利用を促し、子供がいつでも本を手にとれる環境を整備していきます。

【ご家庭では】日頃より、子どもたちの生活習慣に目を向けてくださっていることに感謝申し上げます。今後も、「早寝・早起き・朝ご飯」のサイクルを整えていただけるようお願いいたします。家庭学習につきましては計画的に継続的に取り組む中で、量や質の向上を目指していくことも大切です。読書についてもお声かけいただければと思います。読書は、人生を豊かにするとともに後の学力に大きく影響を与えていきます。子どもたちの取り組みを見守っていただくとともに、「褒め」と「励まし」の言葉掛けを意識していただけると幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。